令和５年度第１回三条市教育事務点検評価委員会会議録

１　開会宣言　　令和５年７月５日（水）　午後１時 30 分

２　場　　所　　三条市役所栄庁舎２階 201 会議室

３　出 席 者　　雲尾委員長、星野委員、味田委員

４　説明のための出席者

髙橋教育長、平岡教育部長、野水教育総務課長、小林子育て支援課長、
熊倉学校教育課長、森田教育センター長、佐藤教育総務課長補佐、
井上教育総務課庶務係長

５　傍 聴 人　　なし

６　会議次第

１ 開会
２ 委嘱状の交付
３ 教育長挨拶
４ 自己紹介
５ 委員長の互選
６ 職務代理者の指名
７ 議事
(1)　教育に関する事務の点検及び評価について
(2)　令和４年度教育に関する事務の事後評価シートについて
８ 次回教育事務点検評価委員会の日程について
９ 閉会

７　会議の経過及び結果

５ 委員長の互選

（野水教育総務課長）

委員長は、お手元の三条市教育事務点検評価委員会要綱第５条の規定によりまして、委員の中で互選により定めることとされております。

適任の方がいらっしゃいましたら御推薦をお願いできればと存じます。

（星野委員）

雲尾委員が適当と思います。

（野水教育総務課長）

今ほど星野委員のほうから雲尾委員を御推薦する旨のお声がございましたけれども、では委員長として雲尾委員にお願いをさせていただくことに御異議ございませんでしょう

か。

では、御異議なしということでございますので、委員長は雲尾委員に決定をいたしました。

では、雲尾委員におかれましては委員長席へ御移動いただきまして、就任の御挨拶をお願いいたします。

（雲尾委員長）

ただいま委員長に選出いただきました雲尾でございます。もう何年もやっておりますので、正しい目が持てているかどうか定かではありませんけども、新しい委員も入られましたので、また気持ちも新たに進めてまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

（野水教育総務課長）

それでは、これ以降の進行につきましては雲尾委員長にお願いいたします。

---

6 職務代理者の指名

（雲尾委員長）

よろしくお願いいたします。

それでは、６番、職務代理者の指名でございます。要綱の第５条第３項にございますように、あらかじめ指名するということになっておりますので、星野委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

〔星野委員同意により、星野委員に決定〕

---

7 議事

(1) 教育に関する事務の点検及び評価について

・野水教育総務課長（資料により説明）

（雲尾委員長）

ただいまの件につきまして御質問、御意見ありましたらお願いいたします。

---

(2) 令和４年度教育に関する事務の事後評価シートについて

・学校教育課所管分について、熊倉学校教育課長、森田教育センター長（資料により説明）

（雲尾委員長）

それでは、ただいまの学校教育課所管分につきまして、順に御質問、御意見をお伺いしてまいりたいと思います。

１、２ページ、「学校運営改善システムの構築」、１―（１）につきまして何かございますでしょうか。

（星野委員）

感想を含めて２点ほどお願いいたします。

１点目は、説明の中にもあったのですけども、今後の方針の中に複数年勤務者の新規転入者の受け止めに温度差があるというふうな文言がございます。これは、小中一貫教育理解全般にわたってのことかなと思うのですが、これはアンケートの中に具体的にどんな声というか、姿があったのか、もしお分かりでしたらお聞かせ願いたいと思います。

２点目は、右側の成果指標のところですけども、第二指標の中に指標に対する評価のところで教職員を戸惑わせることになってしまって云々とあります。この教職員というのは、標準校ですので、事務職員も入っているわけですよね。ですので、先日年度当初の、ちょっと時期忘れましたが、ある中学校の校長先生とお話をする機会があったのですが、みんな事務の方はすごく頑張ってくれていると。でも、帰りが遅いんさねということで、そうなんですか、どんななんですかってお聞きしたところ、結構超過があるというか、結構限界に来ているような話もいただきました。私も現職の頃を思い出すと、どうしてもシステム関係上の理解できないところとかうまくいかないところなどは、すぐ事務職員の方に頼ってしまうことがあり、そんな面でいわゆる先生方についてはサポートするのも事務職員がすぐに窓口になることが多いんじゃないかなという現場の感覚、私あるんですけども、ヘルプデスクですか、それらの利用でぜひ今後の働き方改革というか、その辺につなげられるような、充実度を持った対応をしてもらえるようにお願いしたいなという、これ感想ですが、そんなところを感じております。

以上です。

（熊倉学校教育課長）

まず、温度差ということについてでありますけど、具体的な声ということではなく数値上のことなんですけれども、先ほど申しましたように肯定的評価としては3.2ポイント前年より下がったところですが、９年間の学習のつながりを強く意識しているという強い肯定的評価を示した方は２ポイント近く上がっているんです。その状況を考えた中ではやはり長年三条市にお勤めで、小中一貫教育に慣れ親しんでこられた方については強く意識されているということが現れているのかなということで分析をさせていただいたところです。

あと、校務支援システムについて、事務職員さんも使用できますが、事務職員さんの業務として校務支援システムが活用できるかというと、なかなかそういう部分では弱いのかなという中で、事務職員さんがいろんなところで学校の業務に参画してくださっている中で、一生懸命お勤めでいらっしゃる中でそういうお声が聞こえてきたのかなと思うんですけれども、また逆に新潟県が進めている新潟県給与システムですとか、新潟県の電子申請

システムというので内申書類を上げてくるとか、また新しいシステムがどんどん加わってきているというところが事務職員さんの状況かと思っています。三条市が取り入れている校務支援システムは、直接的には事務職員さんにはあまり業務的には関わりの少ないところであるのが実態です。

（雲尾委員長）

これ評価が総合評価Ａになっていますわけなんですが、100.1％と 109.8％なので、平均しても 104.95、５％増しもいっていないわけですよね。

（熊倉学校教育課長）

そうでしたね。

（雲尾委員長）

それはどうなのかなと。２年ですから、令和２年のところが 103、108 で、これは 105％を超えているけれども、それでもＢであるという。だから、プラ・マイ５％というのは大体目標値どおり、１割超えぐらいから変わるんじゃないかなと思われるんですが、いかがですか。

（熊倉学校教育課長）

改めて見直してみたときに今雲尾委員長先生言われたように思い返しまして、やっぱり担当者のほうともう一回検討する必要があるなと思いながらも、やはり評価Ｂ相当でもいいのかなと考えているところですので、その方向でまた担当とも確認したいと思います。

（雲尾委員長）

ほかよろしいでしょうか。ありがとうございました。

それでは、１―（２）「開かれた学校づくり」、３、４ページについていかがでございましょうか。

（星野委員）

１点お願いいたします。

４ページの第二指標、指標に対する評価の文言のちょっと意味がどういう意味なのかなということで教えていただきたいと思います。上から３行目、「しかし」以下のところですが、「教職員がＩＣＴ機器の活用等に習熟してきたため、ねらいや目的を伝えるという意識がやや下がったと考えられる」と。この辺のつながりというか、意味がちょっと分からなかったので、教えていただきたいと思います。

（森田教育センター長）

担当と話していたときは、最初はオンラインがもう入ってきて、導入していたんですが、今までどおり活動の狙いや目的などを伝えた上でオンラインでの実施という形で形を工夫して行っていたんですけども、それが教員自体がＩＣＴ機器の活用に慣れた現状で、も

うそのままスムーズにオンラインで活動してしまって、以前大事にしていた何のための目的とか狙いとかいうところを、若干そこを押さえが弱くなったんではないかということでこちらの文章表記になっております。

（星野委員）

それは、今後また新しい職員とか入ってきたりすることあるわけですけども、そんなことに対してもこのままでよろしいということでしょうか。

（森田教育センター長）

ですので、目的や狙いをきちっと明確にしたことをまた継続して、大切にしなければいけないということでありました。

（雲尾委員長）

では、第二指標の指標説明の文章なんですけど、２行目です。「教職員の地域と触れ合う活動のねらいや目的の周知」というのは、見たときに教職員が触れ合うのかみたいなふうに読み取れて、括弧の中を読むと教職員による周知なんだなということが分かっていって、教職員により児童生徒への周知なので、これはだからむしろかぎ括弧の中は最初の「教職員の」というのを取ってしまって、「地域と触れ合う活動のねらいや目的の児童生徒への周知」というふうに、「教職員の」という言葉を取って、「周知」の前に「児童生徒への」という言葉を入れるほうが正確な誤解のない伝わり方になるんじゃないかと思いますが。

（森田教育センター長）

はい。ありがとうございます。

（雲尾委員長）

そのほかよろしいでしょうか。ありがとうございました。

それでは、１―（３）「教職員の資質や指導力の向上」、５、６ページについていかがでしょうか。

まず、左、５ページ、「今後の方針」のところなんですけど、ちょっとすみません。辞書を引いている暇がなかったので、２行目の「教職員のニーズに即し」という、「即す」という字はこれで合っていますか。規則の「則」のような気がするのですが。

（森田教育センター長）

この字にもニーズに応えてといった意味があったと自分は理解しておりますが、もう一度確認したいと思います。

（雲尾委員長）

私もちょっと辞書引けなかったんで、すみません。確認しておいてください。

ただ、第一指標、第二指標、主な構成事務事業がいずれも小中一貫教育推進事業という

名称にはなっているんですが、その後に書かれている内容が違うので、同じ名称のままではなくて、小中一貫教育推進事業の後に括弧して何か副題をつけていただかないといけないかなと思うんですが、何か副題つきますか。

（森田教育センター長）

再度確認したいと思います。

（雲尾委員長）

お願いします。

あと、これは書いてあることの問題じゃなくて、質問なんですけども、第一指標の指標に対する評価の中でいうと 22 講座が肯定的評価 90％以上達成しているということでいうと、逆に言えば 12 講座は肯定的評価が 90％以上じゃないということで、その 12 講座についてはどのような見直しをされるかをお聞かせ願えますか。

（森田教育センター長）

ありがとうございます。90％は超えていないんですけども、目標値超えていないということで、昨年度の講座も結果を見ると、道徳科の研修と、あと子供のアセスメント等の心理研修というところが、90％超えていないというところが 12 の中の講座ありますので、また具体的にその講座をもう一度確認しながら今年度の講座に、指導主事と相談しながら具体的な対策をまた講じていきたいと思います。

（雲尾委員長）

道徳とかアセスセメントが比較的高くないということですか。

（森田教育センター長）

そうですね。昨年度見ますとアセスメントが 85.8 で道徳が 88.9 なので、若干なんですが、という結果がありました。

（雲尾委員長）

分かりました。ありがとうございます。

そのほかよろしいでしょうか。ありがとうございました。

それでは、１―（４）「確かな学力の育成」につきましていかがでしょうか。

（星野委員）

感想も含めて３点お願いいたします。

１点目は、左のページ、総合評価のところの文言として「ＩＣＴ機器」という言葉が下段から３行目に出てきます。ここで初めてこの言葉がこのページで出てくるのかなと思うんですが、ちょっと唐突感があるかなと思いましたので、もしできればその背景にある時代の要請、学習スタイルが変わるというようなこととか、あるいはまた市で整備が完了している端末のこととかその効果的な活用、それとプログラミング学習、教育が必修化にな

ったというようなこともちょっと、小学校でか。それを含めてどこかに触れられているとよいのかなと思いました。また、それは総合評価で書かれてもよいかと思うし、今後の方針の中でも軽く触れる程度でもよろしいかと思うんですが、そんなことはいかがでしょうか。

２点目は、これは感想ですが、右ページの成果指標の達成状況等のところで、記載としてやっぱり印象的なのは前年度比としてどうのこうのというふうな記載は結構多くあるかと思うんですが、そういう視点と、もう一つは事業が終わる４年間のスパンでどうだったのかなという。あるいは、また４年後、例えば今令和４年度の児童生徒は今度は４年後どうなるのかなとか、そういうふうなちょっと幅を持った見方、視点も必要なのかなと思い、例えば令和元年度のところで小学６年生だった子は、児童はその後、令和４年度に中学３年生になっているということですよね。というようなことを見ると、そんな４年間のスパンで見たときにどうなのかなというふうな、そういう視点もちょっと意識して今後の分析等でされるとどうなのかなという、感想ですが、思いました。それが小中一貫教育で大事にされている９年間、あるいは三条市の授業スタンダードにもまた返ってくるものがあるのかなと、こういうふうに感じました。

３点目は、これは確認なんですが、左ページの総合評価の中にＮＲＴの結果、偏差値ですけども、小学校の算数と国語については記載があるんですが、中学校義務教育の後期課程については３行目のところ以降を見ると特に数値の記載はございません。ですが、私今まで携わらせていただいた資料を見ると、この報告書になると総合評価は出るけど、成果指標のこの部分はないですよね、たしか報告書には。ですので、恐らくウェブ上等で見られた方は、一般の方は、そこまで関心のある方は、これ中学は一体どうだったのかなというふうなことで、数値はここに記載があってもよいのかなと思いました。言っている意味分かりますでしょうか。

（森田教育センター長）

中学ですよね。

（星野委員）

はい。数学と英語のところに数値がなかったので、たしか一般で公開されるのはこの総合評価のところは公開されるけど、成果指標の部分は公開されなかったと思うんです。ですので、もし御覧になられた方が総合評価だけ見られているとしたら中学はどうなのかなというふうな思いを持たれる方もいらっしゃるかなと思い、そのように思ったので、確認をさせていただきたいと思います。

以上です。

（森田教育センター長）

１点目の総合評価に関するＩＣＴに関する記載に関しては、また精査したいと思います。子供たちの学習環境がこの３年間で非常に変わってきているので、その辺も踏まえてもう一度表記したいと思います。

２点目の前年度比だけではなくて、４年間の幅を持った、経年を意識したというところで、確かに元年の小６の子供たちが４年度に中３になりますので、そういう視点を持って、もう一度再度分析したいと思います。ありがとうございます。

３点目に関しましても中学生に関する数値も総合評価のまた表記も改めて見直したいと思います。

（雲尾委員長）

今の総合評価のところの数値が書かれるところのすぐ次の文章なんですけど、「各学校に、全国標準学力検査（ＮＲＴ）の結果を分析し、報告することを求めた。」としているんですけど、これはある意味結果を分析し、それに対して学校としての対策も入っているんでしょうけども、それが書かれていないので、結果を分析して報告することを求めただけだと結局教育委員会何もしていないのかみたいなことになってしまいますよね、この１文があることによって。もう少し詳しく書くか、この文章なくすか、いずれかが必要かなと思われます。

それから、次の今後の方針のところで、これはちょっとすみません。辞書引く暇がなかったんですけど、３行目の「そこに捕らわれすぎることなく」の「捕らわれる」はこの捕獲の「捕」なのかなというのが、ちょっとすみません。確認しておいていただけますか。

（森田教育センター長）

はい。ありがとうございます。

（雲尾委員長）

そのほかはよろしいでしょうか。ありがとうございました。

では、１―（５）「豊かな心を育む心の教育と体験活動の充実」につきましていかがでしょうか。

（星野委員）

１点お願いいたします。

先ほどの御説明の中で、今度は紙ベースがなくなるんだなというのを確認させていただきました。今後ウェブ上になった場合に例えば経費の面で学校現場への負担は大丈夫かなというか、プリントアウト結構するんじゃないかなと思うんですが、どうなんでしょうかというのが１つと、それから総合評価の中の一番最後に親子関係の不和に起因する云々というところがございます。今そういうふうな時代というか、状況になってきているんだなというのを改めて知ったと同時に、そのことに対して、またそれを含めたことに対しての

今後の方針というか、その辺はどの辺から読み取るとよいのかなと思いました。確かにやっぱり子供たちの良好な家族関係とか親子関係というのは、１日の学校生活のスタートの大事な部分だと思いますし、それが日々の学校生活の充実につながっていくんだろうと、こう思います。そうしたときに親子関係云々というところはやっぱり何かしらの対応を、難しいところかと思うんですが、考えていかなきゃいけないのかなと、こう思っております。そんなところいかがでしょうか。

以上です。

（熊倉学校教育課長）

紙版からウェブに変わったということに関しまして、研修なんかはタブレットを用いながら実施をするというところもできますので、即紙印刷が増えるかというとその辺まだ確認ができていないというところでありますので、学校の状況も把握してまいりたいと思います。

それから、親子関係のことにつきましては、本当に学校教職員はもちろんのこと、スクールカウンセラーですとかスクールソーシャルワーカー、ＳＳＷとも密接に連携を図りながら、相談体制を強化していくということに尽きるのかなと考えていますので、またそういった教育委員会としての連携も学校のほうに伝えてまいりたいと思います。

（雲尾委員長）

それと、あと９ページ、今後の方針の２段落目の１文目がちょっと分かりにくくなっているので、「令和５年度は」の文章ですけども、「令和５年度は、分析された結果がすぐ分かるＷＥＢＱＵを活用することで」の後に「、」を入れて、「児童生徒の心的状況を把握し」の後の「、」は取って、「共有することは」の後に「、」を入れる。ですから、２か所入れて１か所取る。そうして区切っていただいたほうが読み取りやすいかなと思いますので、お願いします。

（熊倉学校教育課長）

ありがとうございます。

（雲尾委員長）

それでは、１―（５）よろしいでしょうか。

１―（６）「健やかな体を育む健康教育、体力向上の取組の推進」につきましていかがでしょうか。

（星野委員）

４点ほどお願いいたします。

１点目は、今後の方針のところですけども、この子どもがつくる弁当の日の一斉実施がなくなるということがどんな背景でそのようになったのかというところを、それは今後は

一斉実施はしないけど、各学校に一任するというのは実施しない学校があってもいいよというふうなことも含めてなのか、その辺もまたお分かりになれば御説明いただきたいと思います。

２点目は、食育改善推進委員、たしか私も現職のときにあったかなと思うんですが、具体的にどのような形で活用できるのかというところを教えていただきたいと思います。

３点目は、体力テスト等に関わってですが、総合評価のところの、先ほど訂正もございましたが、「しかし」以降の状況というのは令和４年度に始まったことなのか、それとも以前から見られた兆候というか、そういう傾向があったのかどうかということ。

４点目は、成果指標のところですけども、平成 30 年度の参考値に比べると令和３年度、前々年度ですけども、達成率がかなり落ち込んだのでありますが、それがコロナ禍の中にあっての令和４年度になって飛躍的に上がってきたところの有効な手だてというか、どんなところがあったのかなと。もしお分かりであれば教えていただきたいと思います。

以上です。

（熊倉学校教育課長）

１点目です。子どもがつくる弁当の日の一斉実施はせずということに関してでありますけれども、令和４年度がこれまでの取組の区切りというところだったものですから、これまでの取組を振り返りをしまして、ここに出てきている事業以外のものもいろいろとこれまでの取組状況、成果等を精査させていただく中で、また学校現場の働き方改革等も叫ばれている中ですので、この取組を継続していくか、また見直しをかけていくかということで昨年度検討させていただく中で、ここに出てこない行事等についても昨年度で一旦終了にさせていただく等々の結果を出させていただきました。ただ、この子どもがつくる弁当の日につきましては、働き改革云々ということよりも、取り組み自体についてはこれまで長年の継続した取組の中で、学校現場のほうには十分浸透することができてきたというところで判断させていただく中で、またこの取り組み自体がなかなか難しい御家庭も近年聞かれるところでもございますので、三条市全体としての取組ということについては一旦ここで区切りとさせていただきまして、また学校で弁当を持参するという日は当然年間の中では幾つかあるわけですので、同じような取組を継続していくことにつきましてはまたそれぞれの学校の御判断、お願いをさせていただいたところでございます。

食育推進改善委員につきましては、また食育推進室のほうとも連携させてもらいながら、学校現場のほうに入って、それこそ子供たちと一緒に調理をしていただく中で、とても子供たちにもいい影響を与えてくださっているというふうに聞いているところであります。

そして、３番目、体力の傾向についてですけれども、４番目の昨年度が非常に下がって

いて、今年度また回復してきたということにも関わるんですけど、本当に昨年度びっくりするぐらいちょっと状況がよくなかったんです。これ見ていただくと分かるように、令和２年度は体力テスト自体が実施がなかったということの中で、令和２年度についてはそれこそ体育もできるだけマスクをしてという状況の中で、非常に思いっ切り動くということについて制限があった年であったという影響が令和３年度に出てきているんではないかというふうなことも考えていたところであります。でも、またそれぞれ工夫する中でとか、動くときにはマスクを外して思いっ切り動くとか、その後のいろんな情報が加わってくる中で、また少しずつ体育の時間も充実したものになってきたというところで数値も回復をしてきているのではないかなというふうに考えています。全般的にハンドボール投げとかソフトボール投げ、投げるというところが弱いということは、長年の三条の傾向であるかなというふうに捉えているところであります。

（雲尾委員長）

ほかよろしいでしょうか。ありがとうございました。

では、２―（１）「ＩＣＴ、グローバル化に対応した教育の推進」につきましていかがでしょうか。これは差し替えのほうですね。差し替えのほうの 13、14 ページを御覧ください。14 ページ、第二指標の主な構成事務事業なんですけども、名称が「ＡＬＴや」……これ業務委託になっているんですね、最後。業務委託するという事業で、派遣しって。何かすごく違和感があるんです。これ事業名って変えられるんですか。どうなんですか。

（熊倉学校教育課長）

変えることはできるんではないかとは思いますが。

（雲尾委員長）

ですから、この内容と合っていないかと思いますので、内容に合わせた名称にしていただくといいかなと思うんです。

（熊倉学校教育課長）

はい。検討させていただきます。

（雲尾委員長）

お願いします。

その他よろしいですか。ということで、２―（１）終了して、戻って２―（２）「市民性を高める教育の推進」につきましていかがでしょうか。星野委員、よろしいですか。

（星野委員）

はい。

（雲尾委員長）

ありがとうございました。

では、２―（３）「社会で自立するための特別支援教育の充実」につきましていかがでしょうか。

（星野委員）

４点ほどお願いいたします。

１点目は、特別支援サポーターの補充というか、応募者が少なかったということにつきましてですが、現場にあっては大変大きな問題だろうなと思います。その背景もいろいろと考えられるのだろうと思うんですが、私の現職のときのことを思い出すと確かに児童生徒の障害等々の多様化とか、いろんな重篤化はあるんだなというようなことを思いつつも、特別支援学級というかが結構すぐできるという言い方ちょっと悪いですが、結構増えてきているんだなという印象を持ったのが勤めた後半の年であります。昔というか、それ以前はそんなすぐにはできなかったというか、何かすごく難しいんだなという、手続とか、そういうふうな資料整備が難しいんだなと思いつつも、何か後半になってきたらすごく増えているんだなというのが私の印象でございます。法整備とかいろんな部分でのことが関わってのことだと思うんですが、今後サポーターさん等の力を借りることというか、御支援いただくことは非常にまた増えていくことが十分予想されるのではないかと思うんですが、この定数というのはどのように考えられて算出されるのかなというところが１点目です。

２点目は、今後の方針のところにつきまして、中段に「特別支援教育支援体制説明会」という文言がございます。昨年度もあったのかなと思い、ちょっと資料をひもといてみたんですが、初めて今年度出てきた言葉かなと思います。研修会ではなくて、説明会ということですので、やや受け身的なというか、そういう会なのかなと思いつつもどのようなイメージの会なのか、それを必要としている恐らく背景があってのことの実施だと思うのですが、そのところどんな説明会のイメージなのか、どういうものなのか教えていただきたいと思います。

すみません。２点にします。

（熊倉学校教育課長）

星野委員御指摘のように、特別支援学級は本当に急速に増加をしてきていたところですけれども、今年度につきましては昨年度より若干減少しているというところで、ずっと上向きに来ているところを少し横ばいになりつつあるという状況であります。サポーターの定数、これまでは、一昨年度までは 65 ということでしばらくそのまま来たところなんですけれども、５年ぶりぐらいに定員増を市の当局から認めていただいて、73 ということになりました。その 73 の算出の仕方、ちょっと詳しいところ今資料手元になく、お伝えできないんですけれども、特別支援教育担当の職員のほうで本当に何項目、何観点かの指標

を用いる中で、新たには73名必要だということでさせてもらったところで、確認していきたいというふうに思います。

２番、特別支援教育支援体制説明会ですが、これは４月20日過ぎに実施をさせていただきました。対象は各学校の管理職と特別支援教育コーディネーターにここに集まってもらいまして、三条市の特別支援教育に関わる１年間の進め方について、いつ頃どういったことを実施をしていくか、そのためにどのような準備をしていくかということで、見通しを持っていただく。その上で実践に当たっていただくということで、異動してきた方も含めて各学校から先ほど言った方に集まっていただいて、実施をさせていただいたものですけど、これまでも行ってきているんですけれども、より丁寧にさせていただいたということであります。

（雲尾委員長）

第一指標、第二指標、それぞれ主な構成事務事業があるわけですが、第一指標のほうは「特別支援教育事業」と書いてあって、決算見込額が１億3,665万6,000円ですから、左側にある全てということですよね。でも、その説明文が上に書いてある支援計画を書くというだけの話になっていて、支援計画書くことに１億円は使わないだろうとなると、ここに書かれるのは第一指標の指標説明に書かれた内容ではなくて、特別支援教育全体のことを書かないといけないんじゃないかなとは思うんです。そこはそれで済んだとして、そうするとじゃ下の特別支援教育研修会の５万9,000円はどこから出てくるんだろうということになるわけです、上の事業に全部使っているので。これは、特別支援教育事業の中の一部分の事業という意味での研修会の５万9,000円ということなのか、別の教職員研修の５万9,000円なのかというあたりですね。お願いします。

（熊倉学校教育課長）

上の１億3,665万何がしというところにつきましては、先ほど話に出ました特別支援サポーターの雇用に関するものが主なところとなっているところであります。下の研修の５万9,000円につきましては、この一部分になるのかどうかということを確認をさせていただき、必要に応じて訂正をさせていただきたいと思います。

（雲尾委員長）

分かりました。

（味田委員）

保護者目線なんですけど、私も上の子と下の子で10年以上違うので、本当に今特別支援の子が多いんだなと思っているんですけど、教室数も結構増えていて、よその学校はみんな足りているのかなという疑問もあるんですけど、サポーターというか、パートタイム職員を増やすだけで対処できるのかどうか。すみません。お門違いのことを言っていたら

申し訳ないんですが、その辺のところはどうでしょうか。

（野水教育総務課長）

教育総務課のほうからお話しさせていただきますと、確かに御指摘のとおり教室についてはクラス編成に必要な数を用意しなければいけませんので、その学校の施設の造り、規模によりましては１つの部屋を２つに区切るような形でパーティション等をして、その上で必要な空調なり、今であればＩＣＴが使えるように無線ＬＡＮのネットワークを引いたりということで、必要な整備は整えてその増減に対応させていただいておりますので、現時点ではクラスを増やしたいんだけど、教室が足りなくて増やせませんということはないです。

（雲尾委員長）

今後足りなくなる可能性はあるという。

（野水教育総務課長）

先ほど学校教育課長が申し上げたとおり少し横ばいというところですけれども、今後その増え方によってはそこの見通しを持った形での施設の在り方であったりとか、また学校の今建物の使用状況を把握した中で学校現場と調整をして、場所の確保といったことも考えていかなければいけないということかなというふうには思っていますんで、そこは中でよく連絡をとり合いながら対応してまいりたいと思います。

（熊倉学校教育課長）

逆に通常学級のほうが減少傾向にあるということもありますので、今まで通常学級の教室として使用していたところを広さに応じて、またそこを半分に仕切ったりしながらとか、考えながら特別支援学級に配当させていただくということもいろいろ学校ではさせていただいています。

（雲尾委員長）

よろしいでしょうか。ありがとうございました。

では、２―（４）「学校外における学びの機会の充実」につきましていかがでしょうか。

（星野委員）

４点お願いいたします。

１点目は、正直とても残念な気持ちということで、とうとうＣ評価になってしまったなというのが私の正直な気持ちです。残念だなと。経年変化を見てみると、毎年度実績値、そして達成率等が減少傾向というか、減少しております。日曜マルシェのなくなったこととか、コロナ禍の影響等々いろいろ考えられる要素はあるかと思うんですが、初年度のところからは半数強減っているというようなことであることを考えると今後どんなふうに学校外での学びの機会というのを考えていくとよいのかなと思います。今年度は今まで習

熟度クラスを見直すというふうなことで今後の方針書かれていたので、どんなふうになるのかなと思って、年度当初待っていましたところ教室が１つ減ったといいますか、プラスワン教室がなくなったのか。それでプラスワンがなくなり、ステップアップ、ジャンプ教室というふうな編成があっての見直しがされたのかなと思ってはいるのですが、今後どんなふうな形で学びのマルシェ、学校外での学びの機会を考えていかれる、なのかなというところをちょっと１つお聞かせ願いたいと、こう思います。

２点目は、今後の方針の冒頭の１文は総合評価のところでもあるので、カットしてよいのかなと思います。

３点目が先ほど、すみません。申し上げました習熟度クラスのことでの確認なんですが、これは恐らく今年度のステップアップ、ジャンプ教室になったということの変更の意味だと思いますが、これがもし受講者の参加している教室を替えるという教室変更のことなのかどうかなというところを確認しようと思ったんですが、それは恐らく教室がプラスワンがなくなり、ステップアップ、ジャンプアップ教室になったということの意味合いなんだろうなと私今思っておりますので、もし間違っていたら教えていただきたいと思います。

４点目は、広く知ってもらうというところ、今後の推進方法のところにありますが、これは一番最初の今後の行方というか、方向はどんなふうになるのかなというところとも関係するんですが、学校にも３回ほどですか、配付の依頼、学校かな、これは。行っておられるということとか、ツイッター等々活用されているということを書かれておりますが、何とか増えていってほしいなという希望があります。どういうわけか今年度、私栄庁舎なんですけども、中学生が増えました。何でなのか分からないんですが、中学生は現状いつもこんな感じかなというふうな印象ですが、増えた理由は分かりません。ですが、少しでもＰＲというかをする中で、子供たちに何とか浸透、安くていいもんだよというところを広めていけたらなと思ったときに、例えば公民館とか、まちやまとか、体育文化会館とか、そういう公共の施設のところにも棚に置かせてもらうとか、そんなふうなことってやっぱり難しいのかなと思ったりするんですが、そんなことはどうかなということと、併せて右側の成果指標のところにも書かれてありました。第一指標のところですけども、ああ、そうだったのかなと私も今読んで分かった次第なんですが、アンケートの記載、記述の内容の中に高校合格というところのお礼の言葉とか、あるいはメールなどが来ているんだなというところを聞かせていただくと、指導者という立場ももちろんそうですけども、例えばチラシ、パンフレットの中にこんな声があるんだよというようなこともちょっと載せてあるとチラシを見た人はそうなのかなと思うかもしれないので、その辺のところにもＰＲの中で触れてもらったりするのもどうかなと思いました。

以上です。

（森田教育センター長）

まず、１点目、減少傾向とあるんですけども、実は令和２年度日曜と土曜を両方開催している中でも 251 人でありまして、私もちょっと調べてみて、日曜日の参加者を引いてみると 168 人が土曜日に通うことができていたということで、土曜日だけを見ると 168、それが３年度土曜日だけになって 193、そして 145 なので、300 人を基準に考えると 48.3 なんですけども、先ほどもお話ししたとおりちょっと基準値というのは今例えば日曜と土曜であれば子供たちも通う選択肢が多かったわけですけど、今土曜日限定なので、その辺が条件変わってきている中でちょっと実績値の見直しができたらというふうに考えていますので、結果としては達成率というのはもう少し上がってもいいのかなと。実質的にはもっと上がっているんじゃないかなと。本当に指導員の先生方には丁寧に対応していただいていると思っております。

あと、習熟度クラスに関しては、今ほど星野委員からお話しいただいたとおり昨年度プラスワン、ステップアップ、ジャンプアップと３段階、３クラスあったものをプラスワンとステップアップを一緒にしてステップアップという名称にして、ジャンプアップはそのまま残したと。発展的なジャンプアップという形でありますので、実態は２つあったものを１つにさせていただいて、やらせていただいているという実態でありまして、例えば下のクラスをもう募集しなくなったということではありませんので、お願いしたいと思います。また、今来ている子たちの実態に応じて習熟度別クラスに分けようということではありませんので、お願いいたします。

あと、今お話いただいた体験教室を７月 29、８月５日等もまた予定しているんですけども、学校を通じて案内を配付する予定でありますが、今星野委員からヒントいただきました例えばチラシなんかを置くことができるのかなという点もまたちょっと今後検討していきたいと思いますし、実際参加してもらった子供たちの感想が例えば分からないところが分かるようになってよかったとか、算数の苦手のところが分かるようになってよかったとか、やっぱり最後まで分かりやすく教えてもらってよかったとか、より集中して家よりも勉強できたとか、先生がとても親切だったとか、そういう実際声がありますので、その辺も広報にもまた活用していきたいと思っています。

あと、私実は今年度の開校式、教育センターのほう担当させていただいて、星野委員も一緒に開校式も出ていただいたりしましたが、私見ていますと小学校時代に通っていた子たちがまた中学生になっても来ている子たちがいたりして、星野委員の熱い指導の下、リピーターが後を続いているのかなと思っておりますので、そういったつながりも大事にしていけたらと思っております。ありがとうございます。

（雲尾委員長）

ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございました。

・子育て支援課の所管分について、小林子育て支援課長（資料により説明）

（雲尾委員長）

では、差し替え資料の21、22ページ、３―（１）「幼児教育内容の充実」、これにつきまして御質問、御意見等ありましたらお願いいたします。

（星野委員）

ちょっと幾つかお願いいたします。

１点目は、総合評価のところにある「運動遊びプログラム」という言葉ですが、これ今ほどの御説明で三条市独自というようなことでありましたし、また家庭版もあるということでありました。これは、非常に大事にされている第一指標に関わる部分でもありますので、何かこういうものですよというふうな付記は要らないのかどうかなというところが１点目です。

２点目は、その総合評価の①の文言なんですけども、上から４行目のところ、後段からです。「保育園等での「運動遊びプログラム」の活用が前年度比べ」となっているので、「前年度に」が入るとよいのかなと思います。

次は３点目ですが、３点目は同じく総合評価の中の③、２行目のところに「育ちや学びの言語化」というところをもうちょっと具体的に意味を教えていただきたいなというところであります。

あわせて③のところの５行目でしょうか。こういう言葉あるのかなと思ったんですが、中ほどに「行政区」、その次に「幼児教育施設種」というのがありますが、こういう、ちょっと私分からなかったので、どういうものなのか教えていただきたいと思います。

同じくその下に、これはこれでも通じるのかなと思うんですが、その下のところ、行ですが、「保育士同士が交流でき、研修での学びは」となっているんだけど、「が」のほうが分かりやすいかなと、こう思いました。「は」でも通じなくはないと思うんですが、そのところ。

そして、次は22ページのところで、今ほどの御説明でも何となく分かったのですが、確認です。目標達成率が下がってしまっている原因といいますか、背景はスキルアップ不足ということに尽きるのかな、どうなのかなと。その辺のことをお聞かせいただきたいということでございます。

最後ですが、21ページに戻りまして、今後の方針のところの文言の中に②のところ、２行目の最後ですが、「研修受講者のスキル」、これは「維持」でよいのか、それともアップ、向上じゃないのかなと思ったんですが、アップ、向上でどうなのかなと、私はこう思

っておりますが、以上です。

（小林子育て支援課長）

こちら、先ほど星野委員から三条版のこういうものですが、付記が必要でないかということですが、そちらについてはまたちょっとこちらで調整をさせていただきたいと思っております。

２点目、「育ちや学びの言語化」、また「行政区」、「幼児教育施設種」というものは具体的にどういうものかということで、こちらの表現につきまして、まず「育ちや学びの言語化」というところについては表現のほうを修正等検討させていただければと思っております。「行政区」や「幼児教育施設種」ということですが、こちらは市町村ということでした。大変失礼しました。「幼児教育施設種」というところは幼稚園であったり保育所、また認定こども園等の施設の種類ということで御理解いただければと思います。

「は」、「が」というところは、またこちらで調整をさせていただければと思いますし、先ほどの「スキル維持」というところも向上のほうがよいのではないかということで御指摘ということで、こちらについても調整させていただこうと思います。

あと、成果指標２のところがやっぱり落ちているのはスキルアップに尽きるんでないかということでございました。御指摘ということで受け止めさせていただきましたが、やはり集団生活の中では気付きづらいお子さんというのもどうしてもおられるというふうに認識をしております。こちらの年中児発達参観では臨床心理士の先生であったりですとか様々な職種の専門職の方が見て、そういったことの気付き、保護者、また保育者併せてそういった気付きの場でございますので、当然コーディネーターのスキルというものは重要であると認識しておりますが、この発達参観の場で早めに年中時の時点で気付くということはやはり必要なことであると思いますので、こういったところの取組は今後も継続してまいりたいと考えております。

（雲尾委員長）

「気づき」の「づ」は、全部「付」という漢字を使うんですよね。修正されていますからね。「づ」ではなくて。１か所、第二指標の指標に対する評価の３行目、これ行またがっちゃっているんで、「気付き」に気付きにくいということになっていますが、直しておいてください。

（小林子育て支援課長）

こちら後ほど統一させていただこうと思いますので、よろしくお願いいたします。

（雲尾委員長）

そこの第二指標の主な構成事務事業の三条っ子発達応援事業というのは3,320万かかっていて、これはこの全体の決算見込額の664万をはるかに超えるんですが。

（小林子育て支援課長）

こちら先ほど説明が漏れておりました。三条っ子発達応援事業というものは、気付きから継続的な支援まで行っておる事業でありまして、具体的にはこちらの３階に発達支援ルームというものございまして、そういった児童発達支援事業を実施して支援を行っております。それらの費用を含めまして3,300万ということで、こちらの21ページの総事業費の内訳が、これ年中児発達参観だけの数字を入れておりましたので、これ気付き事業のみの数字でありましたので、こちらについてはちょっと後ほど、修正させていただきたいと考えております。

（雲尾委員長）

修正されるのは、21ページのほうが修正されるという意味ですか、そうなると。

（小林子育て支援課長）

はい。三条っ子発達応援事業は気付きから支援まで、全体的にやるものが三条っ子発達応援事業でございますので、こちらのほうは３年度までがそのような数字で書いてございましたので、第二指標のほうを気付きのところに修正をさせていただきまして、三条っ子発達応援事業（年中児発達参観）というような付記をさせていただきまして、そうしますと650万ほどの数字になりますので、そちらに修正をさせていただこうと思います。

（雲尾委員長）

こちらのほうを下げるということですね。分かりました。

（小林子育て支援課長）

内容につきましても継続的な支援というところの支援のところの数字を除き、気付きというところでまとめさせていただこうというふうに思いますので、よろしくお願いいたします。

（雲尾委員長）

あと、21ページ、今後の推進方法の４点目です。結局そこで公表できるよう、引き続き公表の重要性を説明していくというだけで、要は公表しない園が悪いというだけにしか、言っているようにしか見えないんです。公表できないでいる阻害要因というのは果たして分析されているのか。どうなんでしょう。公表するのが大変だから、２年に１回になっているとか、その辺。

（小林子育て支援課長）

実際に公表を全くされていないというところが２施設だけであります。そこの園につきましては、様々な機会を捉えまして園の信頼ということで、直接お話をさせていただいているところであるんですが、なかなか公表というところに至っておらないというのが現状であります。そのほかの施設につきましては、隔年でやられているというところの施設が

数施設ある。ほとんどの 32 施設中 27 施設は基本的には毎年公表されていらっしゃるんですが、こちら限られた園でございますので、そちらにつきましては今後も引き続き個別にアプローチをして、毎年公表できるような形の、ただこちらについては指導云々というところまでの権限を持ち合わせていないところでございます。

（雲尾委員長）

ですから、指導するとかじゃなくて、この書き方だと公表しないほうが悪いから、ずっと周知さえしておけばいいみたいな形になるわけです。結局されない事情が分からないので、それに対してこれだけやっても効果は上がらないだろうと、今までも上がってきていないんだからということです。そうすると、ただ各園の事情を勘案しながら、公表できるような支援をしていくほうが本来やるべきことですよね。例えばノウハウがないのか、人出がないとか、やり方分からなければ支援していくことになるし、面倒くさいということであれば、それは説得になるんですけども、あるいは子供の数が非常に少なくて、出すことに対して抵抗があるとか、様々な理由が考えられると思うんですけども、そういうのがないまま周知していくだけだと施策としてはきちんとした改善にはならないんではないかと。今までやってきたことをやるだけのことですので、そういった観点を少し入れていただきたいなということなんです。

（小林子育て教育課長）

今雲尾委員長さんがおっしゃられたところをこちらのほうの来年度の方向性のほう付け加えさせていただこうと思いますので、よろしくお願いいたします。

（雲尾委員長）

じゃ、ほかよろしいでしょうか。

それでは、３―（２）「幼保小連携の推進」につきましていかがでしょうか。

（星野委員）

５点お願いいたします。

１点目は、私の読み取りが悪いんだと思うんですが、総合評価の①の書き方なんですが、ちょっと主語と述語がというところでちょっと私はつまずいてしまいました。こんなふうにするとどうかなということで、保育所等から小学校への要録及び個別の発達支援計画は、全ての施設で 100％その引継ぎが行われ云々となっていくと私はうまく理解できるんですが、いかがでしょうか。原案だと引継ぎが何か活用されているというような意味にも捉えてしまったので、そのように考えました。また、今の文の中の途中に「児童」という言葉がありますが、ここは「児童」ではなくて「子ども」かなと思うんですが、いかがでしょうか。

２点目は、最初見たときに総合評価のＢ評価ですが、私はこれ最初Ｃかなと思いました。

評価の判定はどうなるのかなというので以前頂いた資料、総合評価の考え方という資料に付き合わせてみたところ、幼保小連携の推進については成果指標が１つしかありませんので、そのところは１つの場合というのは、この資料によりますと当該指標の重要度とか指標以外の事業の進捗状況など、そんなところを最終的な判断にしていくと。あわせて、そのところについては総合評価欄のところに説明文を記入、明記することというふうなことがありましたので、そんな目で見たときに、今ほどの御説明の中でその部分がされているかどうかなというところを見たときに、総合評価の中に先ほど４項目の質問のうちの３項目云々が、何かありましたよね。すみません。その部分の関係の記載がちゃんと達成しているよというふうなことは書かれて、こちらの成果指標のほうにはあったかと思うんですが、こちらにはありますか。どうなのかなというところが……

（小林子育て支援課長）

１つ、今途中ですが、先ほどの件ですが、多分今星野委員が見られているのが差し替え前のものでないかなと思うんですが、本日私今説明したの全て差し替えのものとしてお渡ししまして、先ほども星野委員から御指摘いただいた「児童」というところは「子ども」という形で表現修正させていただいておりました。

（雲尾委員長）

ですから、総合評価に第一指標に書かれていたことが書かれていないということについての御指摘ですよね。

（星野委員）

はい。ということであります。

３点目は、第一指標の指標に対する評価のところですが、これ昨年度も何か申し上げたような記憶があるんですが、下から２行目のところに「97.5％の回答率となり目標値には迫っている」というふうなところの、ちょっとこだわっているんですが、目標値には数値的には近いかもしれないけども、この 97.5 という数字の根拠というのは当初の目標値に対してのものではなかったので、ここは 97.5％の回答率という高い数値を示していたという、そういう表現にするとよいのかなというところが３点目です。

最後です。４点目は、24 ページの文言の中に、主な構成事務事業の内容のところに「幼保小連携実務者会議」とありますが、ここには「合同」という言葉が入るんじゃなかったかなと。前の資料、差し替え前のものでございました。

以上です。

（雲尾委員長）

本来Ｃであるものをにするにはそれなりの第一指標に書かれているような説明が総合評価の中に要るのではないかということについていかがですか。

（小林子育て支援課長）

こちら私ども総合評価の②の「また」以下で、「アンケート結果では「子どもが入学を楽しみにするようになった」という姿が 96.8％と昨年度を上回り交流活動の成果といえる」というふうな形で記載をさせていただいたということで、そのように考えていたところでございますが、これよりもう少し詳しくということであれば、こちらで今回またいろいろ修正させていただく中で改めて記載方法について見直しをさせていただきたいと思っております。

あと、１番目の総合評価の表現につきましては、こちらも併せまして記載方法について改めて見直しをさせていただこうと思いますし、指標の 97.5％の回答率、目標値に迫っているということを高いというところとか、幼保小連携合同事務者会議かどうか、今資料持ち合わせておらずに、申し訳ございません。

（星野委員）

当初頂いたのには「合同」というのが入っているのとないのがあったので、どちらかなと思いまして。

（小林子育て支援課長）

会議の名称ですと幼保小連携実務者会議と幼保小連携会議、これらを併せて合同会議というふうに表現をさせていただいているところでございます、よろしくお願いいたします。

（雲尾委員長）

総合評価の②の文章は、ちょっと全体的に乱暴になっていて、②の４行目から「計画通り実施した」のところですけど、これ計画どおり交流活動を実施した幼保小の割合が 80.5％というふうに書かないと交流活動が 80.5％ってそもそもつながらないので、計画どおり交流活動を実施した幼保小の割合が 80.5％となって、「昨年の」という文章が多いんですけど、昨年のというのはその時点から見て昨年になってしまうので、いつ読んでも分かるようにするにはやっぱり前年度なんです。前年度の 76.4％に比べ上がっている。実施している割合ともう言っているんで、そこは「実施率」が要らなくなるわけです。そうなってくると次の文章もアンケートで何々となっていて、「姿が 96.8％」というつながりはないので、そういったようなところをちょっとアンケートの数値を説明する文章を全体的に丁寧に合わせていただいた上で御検討いただきたいと思います。それでもなおかつＣではなく、Ｂなのかという点ですね。指標自体はもう３つ以上ということに決まっているので、それを１つでもあるから、いいんだというふうに言い換える、説得するためにはもう少し丁寧な文章できちんと説明されないと通じないかなと思いますんで、御検討ください。

（小林子育て支援課長）

今の御指摘踏まえまして、こちらの総合評価の記載方法については見直しをさせていただきたいと思いますので、その結果、また総合評価がＢなのかＣなのかというのも含めまして検討させていただきたいというふうに思います。よろしくお願いします。

（雲尾委員長）

ほかよろしいですか。

では、３―（３）「家庭への支援の充実」、これにつきましていかがでしょうか。

（星野委員）

２点お願いいたします。

１点目は、決算、負担額等のところなんですが、施策の基本方針のところにございます決算、令和４年度、令和３年度からは600万ほど増えております。この動きというのが評価シートのところにどの辺りになのかなと思ったところ、それに該当する、新たにこういうところを始めたというようなところで読み取れるのが総合評価の②の辺りなのかなと思いましたが、その辺りはいかがでしょうか。

２点目は、子育て拠点施設の利用者数が35％強増えているということで、この背景といいますか、相談機能が結構充実されたんだなと、こう思うんですが、その辺の助産師さんとか栄養士さんによる相談機能なども増えているのか、その辺ちょっと増えた背景というんですか、それらちょっとお聞かせ願いたいというふうに思います。

以上です。

（小林子育て支援課長）

令和４年度の決算額ですけれども、令和３年度に大崎地区に、つくし保育園のところに新たに子育て支援センターを令和４年度から開設をさせていただいたことによる影響が大きいものというふうに捉えてございます。子育て拠点施設が35.3％の利用者増となった背景ですけれども、こちらにつきましてはやはりどちらかというと昨年度末ぐらいからコロナであっても、できるだけ行動が、ある程度外に出て、こういった施設に行かれる方が増えてきたものというふうに捉えておりますが、何が全ての原因かというところはまだ、はっきりと分析はできていないというのが現状でございます。相談人員については、基本的にはそんな大きく変わっているところはございません。

（雲尾委員長）

総合評価の①の１文目の最後が「役に立ったと成果を得た」というので、これちょっと意味不明かなということでここは直していただきたいというのと、先ほどと結局同じ話になるんですけど、①のほうは第一指標のほうであり、こちらのほうは103％とあるので、問題はないわけなんですけども、②のほうが結局58.7％という数値で、ですから本来Ｃで

あるのをＢにするならば、むしろ①にいっぱい書いてあることよりも②の内容のほうが詳しく説明されないとＣがＢになる理由にはならないかなということです。そこのところが人は少ないけども、新しくラインを始めて、このことによって広まりがあるとか、そういったようなことがもう少し詳しく総合評価の②の中に書かれないとＢにはならないかなというところがありますので、また工夫していただきたいと思います。

（小林子育て支援課長）

委員長の御指摘を踏まえまして、先ほどのものも含めまして、こちらも記載内容について改めて見直しを図ってまいりたいというふうに思いますので、よろしくお願いします。

（雲尾委員長）

そのほかよろしいでしょうか。ありがとうございました。

・教育総務課の所管分について、野水教育総務課長（資料により説明）

（雲尾委員長）

では、ただいまの教育総務課所管分につきまして御質問、御意見ありましたらお願いいたします。

（星野委員）

１点、28 ページの主な構成事業の内容の記載の最後なんですが、「完了した」でいいんでしょうか。「完了する」、「完了した」でいいのか。どうなんでしょう、ここ。改修工事を完了するという事業で……

（雲尾委員長）

事業の内容なので、過去形ではなく、改修工事を行うということですか。

（星野委員）

はい。かなと。

（野水教育総務課長）

事業の内容でございますので、そうですね。

（星野委員）

以上です。

（雲尾委員長）

ありがとうございました。

トイレの改修行ったのは当年度目標達成率 100.0％ですよね。ハイフンになっていますけども。

（野水教育総務課長）

失礼しました。はい。

（雲尾委員長）

元年、２年、３年度はハイフンでいいんですけど、４年度は100％。

（野水教育総務課長）

はい。100％でございます。

（雲尾委員長）

第一指標のほうは、これは何％になるんですか。同じようにやらないといけないですよね。五百何とか％ですか、ここ。お願いします。

（野水教育総務課長）

はい。失礼しました。

（雲尾委員長）

あと、分かっているようでちゃんとやっぱり書くべきなのは、そこの主な構成事業で令和５年度予算で全小中学校及び義務教育学校の理科室に整備すると。だけど、何を整備するかが分からないということなんです。何を整備するか分からないのは、今後の推進方法のところも結局長い文章で説明されて、高速ネットワーク環境なのかとか、ＩＣＴ環境の拡充なのかとか書いた上で、最後「理科室に整備する」だけなので、ここはやっぱり何を整備するかというのを書いていただくことが必要かなと思います。

（野水教育総務課長）

はい。目的語が抜けておりました。

（雲尾委員長）

そのほかよろしいでしょうか。ありがとうございました。

それでは、７―（２）について終了いたします。

---

８ 次回教育事務点検評価委員会の日程について

野水教育総務課長から提案があり、委員会長が諮り次のとおり決定する。

〔日時〕令和５年７月27日（木）午前９時

〔会場〕三条市役所栄庁舎201会議室

---

９ 閉会宣言　午後４時19分